

研究課題(テーマ)		オンライン英語学習プログラム		
研究者	所属学科等	職	氏名	
代表者				
	国際交流委員会	教授	竹井敏	
研究結果の概要				
<p>ウィズコロナ・ポストコロナ時代における国際交流・異文化への興味・関心を深め、英語の置く最適な通用性に気づき、英語学習への意欲を向上させるため、マンツーマンレッスンのオンライン英語学習プログラムを希望者に実施した。</p> <p>令和4年8月1日から令和5年1月31日までの期間、工学部および看護学部 に在籍する学生43名がDMM英会話をオンラインにより受講した。DMM英会話では、受講者自身が講師・日時・教材を自由に選択し、1日1回25分まで毎日24時間受講が可能である。</p> <p>プログラム開始時と終了時にスピーキングテストとアンケートをそれぞれ実施した。スピーキング技能の自己評価の変化をプログラム実施前後で検証した。</p> <p>希望者は機械3名、知能5名、電気1名、情報3名、環境2名、生物10名、医薬10名、看護9名であった。本年度は1年生にも対象を広げたところ、43名中14人が1年生の参加であった。</p> <p>参加者のうち、10名程度が20回以上、週1回のペースで継続して受講していた。最も多く受講した学生は150回にものぼった。</p> <p>プログラム開始前のアンケートでは、参加学生のうち半数は「スピーキング技能があまり得意ではない」と答えていたが、プログラム終了後では8割近くの学生が「プログラム前より少し向上した」または「プログラム前よりかなり向上した」と技能向上を実感していた。</p> <p>開始前のDMM英会話スピーキングレベルは参加者の多くはLEVEL3~4であったが、終了後、複数の学生において実際LEVELが向上し、LEVEL5~6となるものもいた。</p>				
今後の展開				
<p>本オンライン英語学習プログラムは2年連続で実施された。2年連続で受講した学生のなかには、卒論発表を質疑討論も含め英語のみで行い、海外の大学院に進学する者も出始めた。本プログラムで向上したスピーキング技能が、実際の役に立ち、国際交流に生かされ始めている。2020年来滞っていた国際交流が本格的に再開されつつある現在、本教育プログラムによって学生主体の国際交流がますます盛んになることが期待される。</p>				